

令和2年度 開法寺跡発掘調査 現地説明会資料

令和3年2月7日(日)
坂出市教育委員会文化振興課

◎ 開法寺について

坂出市府中町に古いお寺があったという認識は地元では古くからありましたが、昭和45年の発掘調査で、塔の柱を支えた礎石が発見されたことで実証され、香川県の指定史跡として保護されました。

開法寺はその出土瓦の年代等から7世紀後半～8世紀初頭(白鳳時代)創建の可能性が指摘される、県内寺院でも最古クラスの古代寺院であり、平安時代ごろまで機能していたと考えられています。

また、讃岐国府の国司として赴任した菅原道真が著した漢詩集『菅家文草』には、「開法寺は府衙の西に在り」の注釈文として記されており、国府との深い関連性が想像できます。

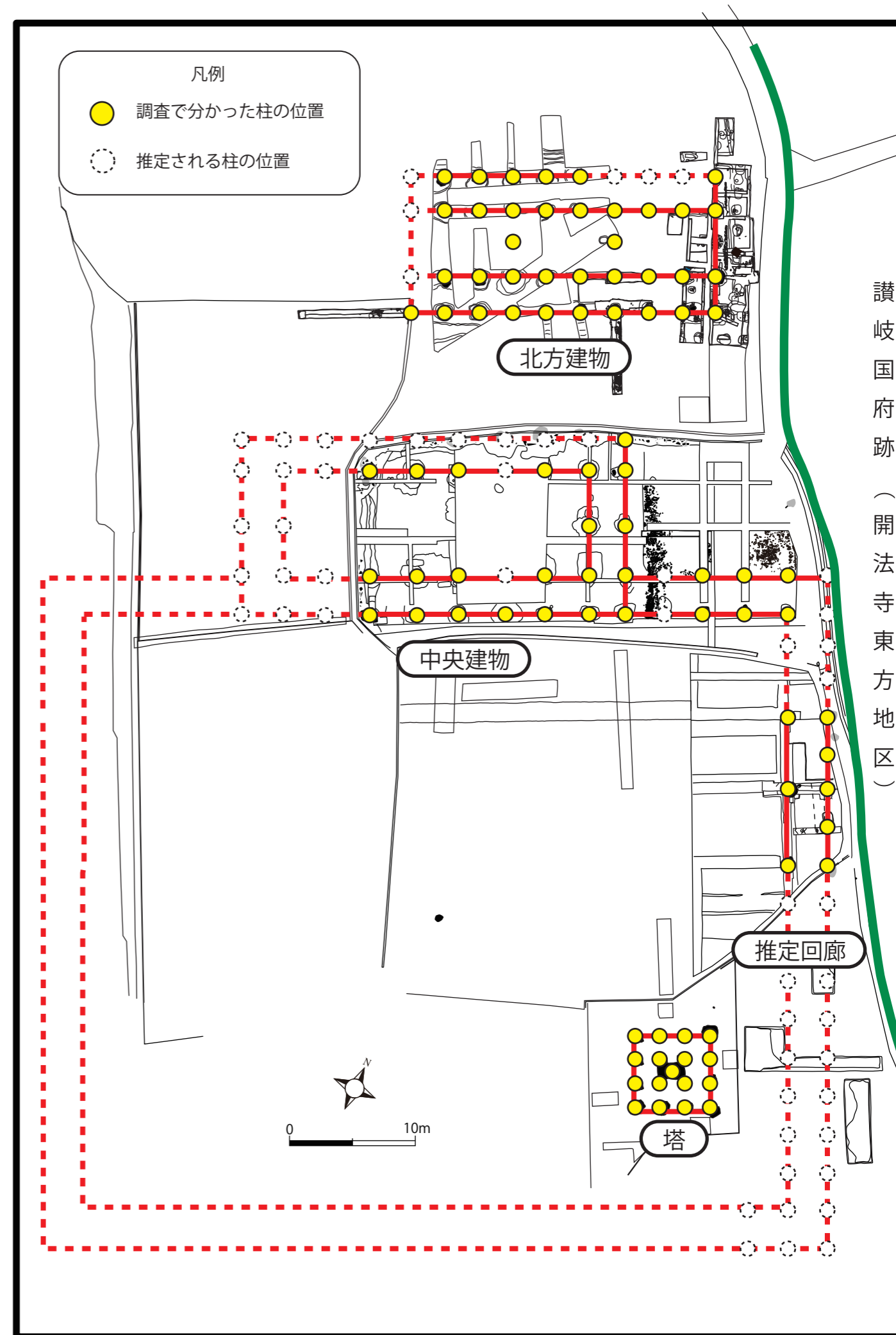
さらに、国府の一角に位置しており、讃岐国府と一体的な関係にあり、国府の宗教機能を担った重要な施設であったと考えられます。

坂出市では平成28年度より継続的な発掘調査を進めており、これまでの調査では回廊跡とみられる遺構や、2棟の大型建物跡等が確認され、開法寺の伽藍配置が徐々に見えてきています。

◎ 立地環境

綾北平野の南端に位置し、綾川が東へと屈曲する部分の西岸部でもあります。海岸線は瀬戸内海と綾川を介して4km程度(現海岸線からは7km程度)離れている場所です。

また、東西を走る南海道(推定)からも近く、周辺には後期古墳群や古代山城である城山、讃岐国分寺跡など、古代讃岐を代表する遺跡が分布し、古代讃岐国の中心としての姿を垣間見ることができます。

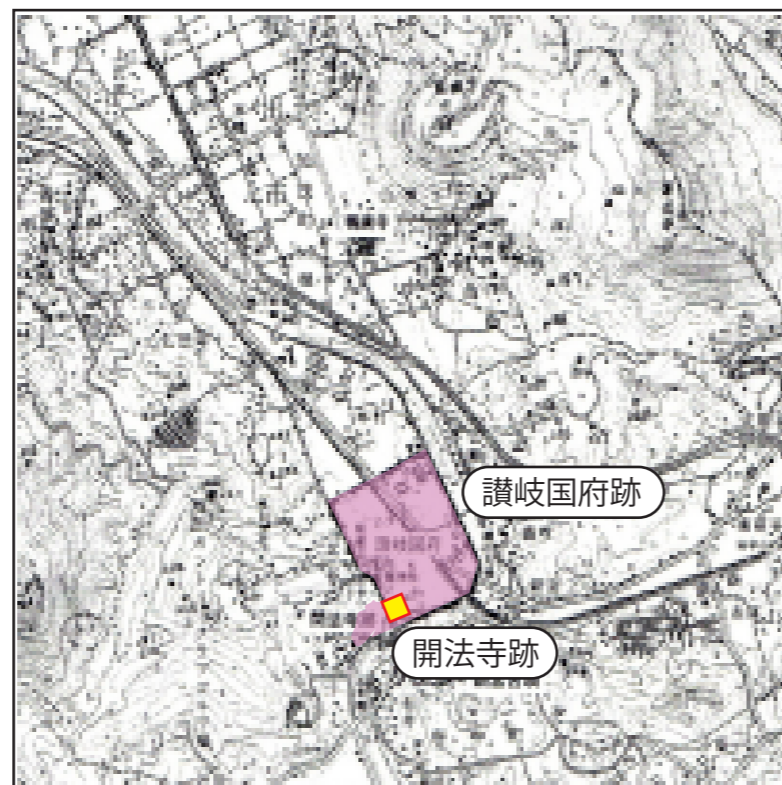


今年度までの調査を受けた開法寺の伽藍配置復元案



開法寺跡周辺の遺跡

(「平成29年度讃岐国府跡発掘調査現地説明会資料」香川県埋蔵文化財センター より引用)



開法寺跡 位置図